

GMOクリックホールディングスが 海外取引・遠隔地バックアップシステムの ストレージ環境を刷新

HPE XP7ミッションクリティカルストレージを採用し
高度な要求に応える信頼性と災害対策を実現

“東京データセンターと沖縄
バックアップセンターそれぞ
れに設置されたHPE XP7の
間で、リアルタイムのデータ
コピーを行っています。HPE
XP7のストレージ機能だけ
で、高度なデータ保護要件
をクリアできました”

—GMOクリックホールディングス
株式会社
執行役
システム部長
田島 利充 氏




目的

海外取引をはじめ多様な金融サービスを支えるストレージ環境の刷新。ミッションクリティカルな要求に応える連続可用性およびデータ保護を実現する。

アプローチ

最新のミッションクリティカルストレージへの刷新によりサービスの信頼性を強化。実績あるストレージ機能を利用しバックアップおよび遠隔地でのデータ保護を行う。

ITの効果

- HPE XP7ストレージを東京および沖縄のデータセンターに導入し、Business CopyおよびContinuous Access Journalにより多重にデータを保護
- 東京ー沖縄間でのデータ転送にContinuous Access Journalを採用し、更新順序が保たれたリアルタイム転送によりデータの一貫性を保証
- HPEデータセンターケアにより保守対応を強化

ビジネスの効果

- パフォーマンス、連続可用性およびデータ保護を強化しつつトータルコストを大幅に削減
- シンプルビジョニングにより余剰リソースを抑制しコスト削減に貢献
- 多様な新規サービスを収容可能なミッションクリティカルなストレージ環境を整備



GMOクリックホールディングス株式会社
執行役
システム部長
田島 利充氏



GMOクリックホールディングス株式会社
システム部
シニアマネージャー
箱崎 和男氏

GMOクリックホールディングスが、海外取引をはじめ多様なサービスを支えるストレージ環境を刷新した。HPE XP7ミッションクリティカルストレージを採用し、処理能力を拡充するとともに、東京・沖縄のデータセンター間を結ぶ災害対策システムを強化。稼働率99.99999%という高い可用性を確保しながら、筐体内バックアップ、ジャーナルコピー、シンプロビジョニング等のストレージ機能を活用し大幅な運用コスト削減を達成している。

チャレンジ

金融サービスの拡充とともに急速にビジネスを伸長

GMOクリックホールディングスは、GMOクリック証券、FXプライムbyGMOなど6つの事業会社を統括する持株会社である。日本国内はもとより、中国・香港、英国、タイ王国にも現地法人を設立し、株式・FX・CFD等の金融商品取引を拡大。2016年7月にはインターネット銀行の共同運営に乗り出すことを発表するなど、金融市場における存在感をいっそう高めている。執行役 システム部長である田島利充氏は、近年のビジネス動向を次のように説明する。

「証券とFX取引が私たちのビジネスの中核であることは変わりませんが、ここ数年で金融商品のラインアップを大きく拡充させてきました。CFD（差金決済取引）でも業界をリードしています。日々の売買が中心のフロー型ビジネスを安定的に成長させつつ、より多くの資産をお預かりするストック型ビジネスを強化していく考えです」

GMOクリック証券の2016年11月の月次データによると、店頭FXの月間売買代金132兆円、口座数は約46万に達するなど、国内店頭FX市場における同社のリーダーとしての地位は磐石なものだ。投資信託や貸付型クラウドファンディング、貸株などの金融商品・サービスのラインアップ拡充と海外市場の攻略が、GMOクリックホールディングスグループの現在の注力テーマである。

「多様なサービスを支えるために、システム環境もここ数年で大きく進化しました。しかし、ミッションクリティカル領域はハイエンドストレージ HPE XPシリーズを使い続けています。稼働実績に裏づけられた高い信頼性、運用のしやすさにおいてHPE XPシリーズに勝るものはありません」とシステム部 シニアマネージャーの箱崎和男氏は話す。

GMOクリックホールディングスは、東京と沖縄それぞれで稼働させているミッションクリティカルアプリケーション向けの中核ストレージを、最新の「HPE XP7ストレージ」に刷新した。

ソリューション

東京・沖縄のデータセンターにHPE XP7ストレージを導入

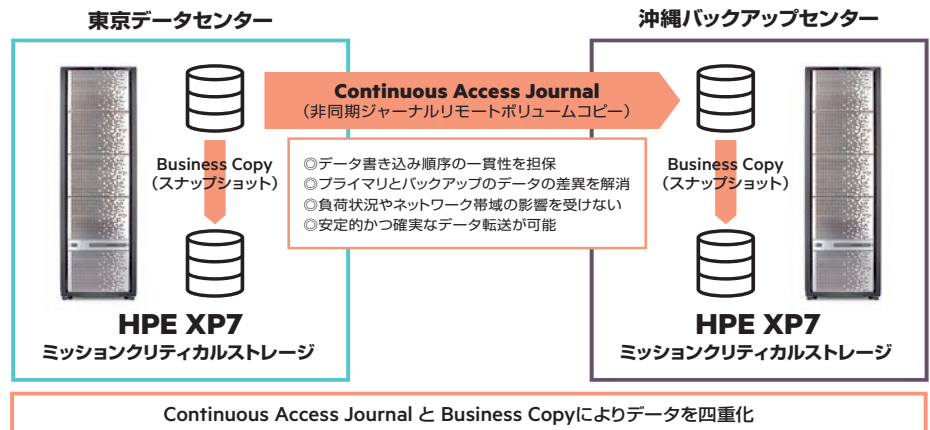
HPEがミッションクリティカルストレージと位置づける「HPE XP7ストレージ」は、サービス停止の許されない領域において豊富な導入実績を誇る「XPシリーズ」の第7世代モデルである。最大480万IOPSという高いパフォーマンスと低レイテンシを実現。99.99999%の連続可用性を備え、ジャーナル機能によるリアルタイムの遠隔地データ保護も可能だ。ミッションクリティカルな要求に応えるストレージアレイとして、実績に裏づけられた様々な機能を利用できる。

「プライマリサイトである東京データセンターでは、中核的なストレージ環境をHP XP24000から最新のHPE XP7に移行しました。本システムは、GMOクリックホールディングスグループ向けの各サービスを担っています。より高い性能と信頼性を実現するとともに、十分な拡張性を確保しました。ミッションクリティカルな環境ですので、これまで緻密に組み上げてきた運用手順やノウハウを活かせることは、私たちにとって非常に重要なポイントです」(箱崎氏)

GMOクリックホールディングスは、ストレージ環境を含めミッションクリティカルシステムの運用を自身の手で行っている。高い技術力を備えたエンジニア集団ならではの方針である。HPE XPシリーズは運用に関する技術情報が公開されているため、ハイエンドストレージでありながら自社運用に取り組む企業が増えているという。

「HPE XP7のシンプロビジョニング機能を活用することで、余剰ディスクを最小限に抑えることができるようになりました。事前にボリュームを固定する必要がなく詳細設計も不要になり、環境構築を短時間で行えることも大きなメリットです」と箱崎氏は話す。

HPE XP7は、ハイエンドストレージならではの性能と信頼性、仮想化をはじめ多様なストレージ機能による扱いやすさを兼ね備えている。GMOクリックホールディングスは、沖縄バックアップセンターのHP XP20000も最新のHPE XP7に移行。HPE XP7の機能を利用して高度なデータ保護・災害対策を実現した。



「東京データセンターと沖縄バックアップセンターそれぞれに設置されたHPE XP7の間で、リアルタイムのデータコピーを行っています。海外でビジネスを展開していくうえでは、各国の法制度に沿ったデータ保護・災害対策が必須です。HPE XP7のストレージ機能だけで、高度なデータ保護要件をクリアできました。」(田島氏)

Continuous Access Journalにより 東京-沖縄間でリアルタイムにデータを保護

GMOクリックホールディングスが利用したのは、「Continuous Access Journal (非同期ジャーナルリモートボリュームコピー)」および「Business Copy (筐体内ボリュームコピー)」と呼ばれるHPE XPシリーズの代表的な機能である。バックアップと遠隔地データ保護の運用手順について、箱崎氏は次のように説明する。

「東京のプライマリストレージ(HPE XP7)に書き込みが発生すると、Continuous Access Journalにより沖縄のバックアップストレージ(HPE XP7)にもリアルタイムで書き込まれます。東京-沖縄という遠距離間でも安全にデータコピーが可能なのは、これまでの運用で実証済みです。さらに、1日に1度それぞれのHPE XP7筐体内でBusiness Copyを利用したバックアップを取得しています。東京と沖縄それぞれで二重化していますので、計四重化されたデータを保持しているわけです」

Continuous Access Journalを利用する最大のメリットは、プライマリサイトとバックアップサイトのデータの差異をほぼ解消できることにある。データ書き込み順序の一貫性が担保されているため、プライマリサイトのデータが破損・喪失してもバックアップサイトでのDBリカバリが可能になる。また、プライマリストレージの負荷状況やネットワーク帯域の変化の影響を受けず、安定的かつ確実なデータ転送が可能という特長もある。

「2つのデータセンターで常に同じデータを保持することは、金融商品を扱うビジネスにおいて必須の要件です。私たちは、これを安全かつ確実に実現するための技術(Continuous Access Journal)と製品(HPE XP7)を選んだのです」と田島氏は言う。

沖縄バックアップセンターではインフラ増強が着実に進んでいる。すでに、海外向けFX取引を含む複数のサービスの継続が可能になっているという。

ベネフィット

オンプレミス資産の柔軟な利用を可能にするサービス

GMOクリックホールディングスでは、社員のおよそ半数をエンジニアが占めており、サービス基盤からアプリケーションまで、主要なシステム環境の企画・開発はもちろん自社運用にもこだわって高いサービス品質を作り込んでいる。GMOクリック証券が「業界最安値水準の取引手数料」を可能にしている背景には、たゆまぬ技術の研鑽と効率化への取り組みがある。

「サービス品質を維持・向上させながらシステム関連コストを抑制することは、私たちインフラチームの重要なテーマです。サービス基盤ではストレージからサーバーまで多くのHPE製品群を稼働させていますが、「HPEデータセンターケア」がシステムの安定運用に寄与しています。システム機器の不調を事前に検知し、サービスに影響する前に保守サービスを受けられることに大きなメリットを感じています」(箱崎氏)

HPEデータセンターケアでは、ハードウェア保守の対応窓口を一本化するとともに、HPEの担当チームが共有されたシステムの構成情報・障害履歴を参照しながら、プロアクティブ/リアクティブの両面からシステムの安定稼働をサポートする。箱崎氏は次のように続ける。

Case study

GMOクリック
ホールディングス株式会社

業界

金融

ソリューション概略

導入ハードウェア

- HPE XP7

導入ソフトウェア

- Continuous Access Journal
- Business Copy

“2つのデータセンターで常に同じデータを保持することは、金融商品を扱うビジネスにおいて必須の要件です。私たちは、これを安全かつ確実に実現するための技術 (Continuous Access Journal) と製品 (HPE XP7) を選んだのです”

GMOクリックホールディングス株式会社 執行役 システム部長
田島 利充 氏

「システム関連コストの抑制という観点では、導入および運用段階のコスト削減はかなり進んでいると考えています。今後はもう一段踏み込んだ策が必要です。私がいま注目しているのは『HPEフレキシブルキャパシティ』です。大規模な初期投資を伴うことなく、ITインフラを拡充させることができるものと期待しています」

HPEフレキシブルキャパシティは、「持たざるオンプレミスシステム」を実現する革新的なサービスである。HPEがインフラ機器を資産として保有し、ユーザー企業はサーバーやストレージ、ネットワークなどITリソースの利用量に応じた料金を支払う。一般的なリース契約と異なるのは、実際の利用量に基づいて料金が発生する従量課金型サービスという点にある。ユーザー企業は、ビジネスの成長に合わせて段階的にITインフラを増強できるようになる。

田島氏が次のように語って締めくくった。

「お客様のニーズをいち早く察知し、スピードを重視しながら、使い勝手の良いサービスを次々と提供していく。私たちのこのミッションは変わりません。今後は、サービス基盤とアプリケーションが相互補完的に信頼性・可用性を高めていく仕組みを強化していきたいと考えています。HPEには、ハードウェア／インフラ管理ソフトウェアを中心に最新のテクノロジーとサービスでのご支援を期待します」

詳しい情報

HPE XP7ストレージについてはこちら

www.hpe.com/jp/xp7



日本ヒューレット・パッカード
公式ソーシャルメディア

facebook.com/HPEJapan

twitter.com/HPEJapan

youtube.com/HPEJapan



**Hewlett Packard
Enterprise**

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。Intel、インテル、Intelロゴ、Xeon、Xeon Insideは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。記載事項は2017年1月現在のものです。本カタログに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。

© Copyright 2017 Hewlett Packard Enterprise Development LP 日本ヒューレット・パッカード株式会社

〒136-8711 東京都江東区大島2丁目2番1号

CST13704-01 2017年1月